

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400900		
法人名	有限会社 アップウェル		
事業所名	グループホームたくひの里 1ユニット		
所在地	島根県出雲市大津町3645		
自己評価作成日	令和1年12月20日	評価結果市町村受理日	令和2年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和2年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者主体の介護…職員は利用者の生活がより充実するように創意工夫しており、季節の献立を考えて利用者 と全体会食したり、毎月の行事を実施している。また、自立支援をしつつそれぞれに合った役割を持ってすごせる ように日々材料を準備するなどサポートしている。今年度は新入所も続いたが入所時からご本人、ご家族の希望や生 活スタイルを詳しくお聞きして、できるだけ違和感がないようにすることにより、大変早くなじまれている。
 ・地域との交流を継続…2005年の開所当時から、ずっと毎週来所される地元ボランティアグループ、保育園児さん たちと交流があり、利用者の楽しみとなっている。近くの神社のお祭りやとんどさん参加の他に、近年では年末に奉 仕活動で窓ふきに毎年来て下さる地元企業のグループがある。
 ・医療連携の充実…重度化した場合の医療機関との連携が整っていて対応がすばやく出来るようになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームたくひの里 2ユニット に記載しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	恵まれた環境や体制を生かした独自の理念をもち、管理者、職員ともに理解して実践している。 理念はよく目にするところに張り出している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事やホームの行事を通じて長年ボランティアグループ、園児、地元企業らと交流している。利用者の状態も理解してもらえ、馴染みの関係ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議内容やホームのサービス内容をネットで情報発信してもらおうとともに、地域の認知症サポーター研修において手伝いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回必ず実施しており、ホームでの利用者の様子や日常を報告させていただいている。 そこで出た意見をサービス内容に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護利用者や障害を持った方の入所があり、市の担当者とは利用者の状況に合わせ、蜜に連絡を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進員の研修終了職員をユニットごとに配置し、年4回の研修を行っている。 ホーム内の会議で話し合い、職員の意識向上を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員は虐待防止を推進し、言葉づかいなどを会議で話し合ったり日々気が付いたことを言っている。チーム全体で注意を払うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用している利用者がおられ、専門機関に学び確認しながら、理解を深めている。利用者それぞれの必要性も考慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前から管理者やリーダーは利用者や家族と面談を重ねて詳しく状態をお聞きしている。契約時は不安や疑問点を聞き、十分な説明をする上にいつでもその後も不安などが出来れば聞いていただけるよう呼び掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りで意見を聞かせてもらうよう呼び掛けるとともに、メールも受け付けたり来所時に聞かせてもらっている。運営推進会議に家族が参加され意見を自由に言っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は要望書を配ったり職員一人ひとりと面接して意見を聞く機会を設けている。管理者は日々の申し送りや会議で意見を言いやすいよう雰囲気づくりをしたり個別に聞き、反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力ややりがい、実績、勤務状況を把握している。体調にもあわせて労働時間や給与水準、勤務条件を考慮しており、今年度は専門家と相談し就業規則を見直している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望や力量に合わせて、研修の参加をすすめ、参加回数を増やしている。資格試験に挑戦してもらい、取得の後押しをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会で役員同士の交流も深めたり、勉強会を企画している。それを実践に生かしたり、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望することや思いをしっかりと聞き取るようにしている。 不安な事や要望を日々の生活の中で問いかけて寄り添い、安心してもらえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや要望をお聞きし、状態を細かく把握しながら、不安なことなどを解決できる方法をともに考え、支援するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず必要とされているサービスは何か、事前に面会したり話をお聞きすることで理解し、どのような支援が一番よいか見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人からの行動を大切に、好まれることとそうでないことを観察して一緒に活動したりしている。安心できる声掛けで、共に暮らす関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご本人と家族の時間を大切にお茶を飲みゆっくりしていただいている。希望をお聞きして家族との外出サポートするなど支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後もご近所の方や知人の面会が多い。入所前のなじみの場所へ買い物に行くことも継続している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良い関係を持って暮らせるように、職員が間に入り個々の訴えを聴いたり会話の仲立ちとなっている。見守りや声掛け支援をさりげなく行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されても面会に行き話を聞いている。退所後もご家族の相談や来所があり、家族や知人を次に入所申し込まれたり、運営推進会議のメンバーに入られたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に対してゆっくり話を聞く時間を作るようにしている。表情や話し方、行動などから思いを理解するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に詳しくお聞きし、自宅の部屋に近い家具の配置にしたり、サービスを移行しても違和感なく生活に馴染めるように少しずつホームの利用時間を延ばすなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の過ごし方を把握し、バイタルチェックでその日の体調や、思いを聞きながら安心して毎日過ごせるように配慮している。趣味を継続出来るよう対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングや日々の生活の中で生じた課題を、本人、家族の意向を聴き、会議などで話し合っている。それをもとに介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や気づきを記録したり、ケアプランに沿った記述ができるように記録用紙を検討、変更している。職員間での情報共有や計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況に変化があったとき等、そのつど本人やご家族のニーズ、意向に即して対応している。入院中の洗濯支援や、外出、外食の付き添いなど取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来所、お祭り参加、保育園児との交流、とんどさんなどで地域行事への参加を通して豊かな暮らしを支援している。利用者の心身の力を発揮した楽しみがある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医を継続したり、本人、家族の意向をお聞きして適切な医療機関で医療が受けられるように支援し安心していただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問医療、看護を利用されており、すぐ連絡したりして適切な治療や看護が受けられるようにしている。連携がとれており小さな気付きや変化も相談して情報共有ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ足を運び情報提供したり、日頃から連携を取っている医療機関に連絡し早期に治療が受けられる体制になっている。退院時のご家族とともに医療機関からの情報を共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に説明して重度化した場合の方針に同意していただくと共に、ご本人、家族の思いを最優先してかかりつけ医や看護師との話し合いの場を度々設けている。1チームとして連携して終末期にも対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルが作成してあるが、応急手当などについて、まだ訓練されていない職員もあり、研修の機会を定期的につづ計画をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回以上の避難訓練を行っている。自然災害や夜間の想定など状況を変えて職員の動きを中心に訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人その人に好ましいと思ってもらえる声の掛け方を考えている。その人らしく過ごしていただきたいという思いで、姿勢や声のトーンなども工夫し、職員間で話しあったりしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの意思を表現できるよう自己決定支援し、ご本人のペースで過ごせるように努めている。困難な方は2択にしたり、思いを言いやすい信頼関係作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を聞くようにしている。一人ひとりの思い、その日の体調、習慣などを考慮して、ご本人が希望を表せない場合は無理なく過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望や思いに沿って、定期的に散髪を行ったり、入浴時に髪を染める手伝いもしている。洋服を一緒に選び、行事や外出に合わせて着替えをされることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外食や会食での楽しみを取り入れたり、バイキングをするときもある。一緒に野菜を切って準備したり、テーブル、お盆ふき、下膳など毎日してくださる方もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録している。飲み込みやすいよう固さや大きさを個々の状態に合わせて調整し、摂取不足の場合は補助食品なども利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じて口腔ケアを支援している。十分ケアができなかったり拒否の強い方もあるが、習慣になって自分から向かわれる方もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録をもとに尿意のサインを把握し、一人ひとりの排泄パターンを理解している。汚染を減らしたり、布パンツのまま維持している利用者もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘からの生活への影響を理解している。水分補給を声かけしたり食品を配慮して準備している。体操、散歩、階段利用しての運動など提供する。薬の調整や処方も相談する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事前にご本人にお気持ちをうかがうようにしている。希望されない場合は清拭にしたり足浴をしたりして支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調をみながら休息の声かけをしている。気温や湿度などにも留意し、環境を整えてゆっくり休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの状態を理解し薬の処方理由や副作用を確認している。症状の変化を医療連携し申し送りしている。どのような薬を服用しているかをわかるようにファイルしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時の情報にないことや新たなできごとの発見もあり、日々探求している。材料を準備したり環境を整え、役割を持って楽しく過ごしていただくように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なじみの場所に毎月買い物に行かれる利用者がおられる。気候の良い時にはご家族と普段いけないような所への外出も企画しサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力量に応じて、職員見守りの中で外出時にお金を所持、買い物していただくようにしている。できにくい方にもバザーで金に代わる券を作り買い物していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があるときには、かけてもらったり取次ぎをしている。遠方のご家族や知人にはがきをかかれることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて壁面飾りや写真を掲示したり花を生けている。まぶしいと遮光のブラインドを下ろして明かりに気を遣ったり、室温調整や換気をこまめに行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のソファで休まれたり、テーブルや椅子の配置を必要な時に変えて、気の合う人とくつろげるようにしている。自由に移動してくつろげるように見守りもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染の鏡台やタンス、寝具を持ち込まれたり、写真などを飾って自分の部屋だとわかりやすくしたり落ち着いた空間を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレも目印があり、必要なところには滑り止めや手すりをつけている。エレベータの操作をして自由に昇降されたり、安全に移動が出来るように標示を貼り配慮している。		